

【玉東町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

(1) 学習指導要領及び中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』で述べられているように、「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、ハードウェア・ソフトウェアの計画的な更新など、ICT環境の持続的な安定が必要不可欠となる。

(2) 本町では、第6次玉東町総合計画を策定し、基本理念を「一人ひとりが手を取りあい、未来へ向かって挑戦するまち」と掲げている。そして、基本目標として、「健全な心身と確かな学力の育成」としており、学校教育活動に取り組んでいる。児童生徒一人ひとりが学習内容をよく理解し、より豊かな学びにしていくためにタブレットを有効な文房具として活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現、情報活用能力の育成に取り組み、社会の変化にしなやかに対応できる生きる力を身に付けた子どもの育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

本町はこれまで、令和2年度末までに教職員や児童生徒1人1台のタブレット端末、校内LAN環境等を整備し、周辺機器を含めたICT環境の整備が完了している。さらにネットワークに関しては不具合の原因を逐次明らかにし、ネットワーク環境改善に向けた対応を行ってきた。

また、学校にICT支援員を配置し、教職員の「授業支援・機器の操作支援・トラブル対応」のサポートを行っている。しかし、教職員の間でICT活用状況に差があることも分かり、学校全体でスキルアップに取り組む必要がある。情報化のための環境や情報が増えることによる機器の操作、システムの理解、目的に応じて活用するアプリの整理と活用など、教職員がスムーズに活用できるようにする取組も検討する必要がある。

令和6年度は、学校間の状況を把握するため「町内情報部会」を開催し、各学校の取組を共有した。校内研修でICT活用について積極的に取り上げられており、学校教育の情報化に向けた意識の深化と具体的な実践が進んでいる。全体のレベルアップにつなげていくには、町全体で調整が必要である。今後はデジタル教科書の活用も増えていくため、教職員や児童生徒が日常的に必要な不可欠な「学びの道具」としてICT機器や学習支援ソフトなどのデジタルツールを活用できる環境の充実を目指した取組を行っていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGAスクール構想により1人1台端末等の整備、活用を始めてから4年目に入り、教職員や児童生徒による学校での授業や家庭学習での日常的な活用が根つきつつある。

そうした中、児童生徒の学びの道具としての1人1台端末は、端末整備・更新計画に基づき引き続き適切に維持・更新していくことを前提として、以下のように利活用を進めていく。

(1) 1人1台端末の積極的に活用について

各学校、情報担当者を中心に積極的な活用を声掛けし、学校全体で取り組む。

- ・学校にICT支援員を配置し、教職員の「授業支援・機器の操作支援・トラブル対応」のサポートを行っている。しかし、教職員の間でICT活用状況に差があることも分かり、学校全体でスキルアップに取り組む必要がある。
- ・情報化のための環境や情報が増えることによる機器の操作、システムの理解、目的に応じて活用するアプリの整理と活用など、教職員がスムーズに活用できるようにする取組も検討する必要がある。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実について

学習支援ソフトや授業支援ソフト等を導入したことにより、教職員のICTを活用した授業づくりに対する意識が高まり授業改善が進んできている。授業の中で、児童生徒が、自分の特性や理解度・進度に合わせて学習を進める「個別最適な学び」や、他の児童生徒の取組を見ることでヒントを得たり、自分と同じ考えや異なる多様な考えに触れることで、自分の考えをさらに深め、友達と意見交換をする「協働的な学び」が見られる場面があるので、それらの実践事例を校内や学校間で共有しながら、1人1台のタブレット端末の活用を更に進めていく。

(3) 学びの保障について

児童生徒の実態等に応じて、ネットワークと1人1台端末を有効的に活用した支援の充実に取り組む。欠席児童や不登校児童の学びの保障の一環として、学校とのネットワークを利用した授業の配信等にも取り組んでいく。